

【保土ヶ谷区】令和2年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和2年6月9日 午前10時30分 ～ 午前11時20分
場 所	保土ヶ谷区役所本館4階 401会議室
出席者	<p>【座 長】 青木 亮祐 議員</p> <p>【議 員】 斉藤 伸一 議員</p> <p>森 ひろたか 議員</p> <p>北谷 まり 議員</p> <p>磯部 圭太 議員</p> <p>【保土ヶ谷区】 出口 洋一 区長</p> <p>安藤 浩幸 副区長</p> <p>伊澤 明 福祉保健センター長</p> <p>小林 悦夫 福祉保健センター担当部長</p> <p>秋山 禎治 保土ヶ谷土木事務所長</p> <p>小野寺 勝 保土ヶ谷消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和2年度保土ヶ谷区運営方針について</p> <p>2 令和2年度保土ヶ谷区編成予算 事業概要及び執行計画について</p> <p>3 その他</p>
発言の 要 旨	<p>議題 1</p> <p>令和2年度保土ヶ谷区運営方針について</p> <p>北谷 議員：</p> <p>こども家庭支援課の「虐待の予防のための啓発活動」に関連して、学校の一斉休校に伴い、3月以降、10代を中心とする様々な相談が増えている状況で、病院の妊娠相談窓口への中学生、高校生からの相談が増加していると聞くと、保土ヶ谷区では、生活基盤の不安定な若年女性への支援については、どのような体制になっているのか。</p>

稲葉 こども家庭支援課担当係長：

保土ヶ谷区では出生連絡票が100%提出されており、10代など若年の方には訪問などにより、丁寧な支援を行っている。

中学生、高校生からの妊娠相談については、こども青少年局が委託にて「にんしんSOSヨコハマ」という事業に取り組んでいる。小、中学生に対しての性教育授業や命の授業等を学校と連携して検討していく。

北谷 議員：

自分でSOSを出すことが非常に難しい、助けを求められない部分もあるため、ぜひ必要な人に、相談先があることが伝わるように、区として普及啓発に努めてほしい。

また、野田市の事例にあったように、児童虐待とDVがつながっているケースもあるので、そういった視点も踏まえてほしい。

斉藤 議員：

母子保健コーディネーターがようやく全区に配置され全市展開になった。これを契機としてアウトリーチを丁寧に行い、妊娠期からの切れ目のない支援を、保土ヶ谷区でも感度よく推進してほしい。

議題2

令和2年度保土ヶ谷区編成予算 事業概要及び執行計画について

北谷 議員：

災害対策推進事業に関連し、各拠点・避難所へのアルコール消毒液及びマスクの具体的な配布数を教えてほしい。

中山 総務課長：

各拠点、1避難所あたりマスク100枚、消毒用アルコール1リットルを用意している。数が少ないこともあるため、避難時には、マスクなどはお持ちいただくよう周知していきたい。

北谷 議員：

エアマットも各区200枚配布していると聞いているが、どのように配布するのか。

中山 総務課長：

現在区で保管しており、どのような状況で使うのが一番効率的かを検討、調整のうえ、配布していく。

北谷 議員：

ダンボールベッドも配布されていると聞いたが、どのような状況か。

中山 総務課長：

まだ区役所には配布されていない。

齊藤 議員：

「ほどがや歯つびい health 事業」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、重要性が増している。歯科医院では、緊急事態宣言の影響で、受診のタイミングが遅れてしまう患者もいると聞く。

特に高齢者は、口腔内の環境悪化が他の疾患にもつながるおそれがある。表現は難しいかもしれないが、「必要に応じて検診を受けて、自分で口の健康を守る」という発信も行っていくべきではないか。

檜崎 福祉保健課長：

緊急事態宣言等が解除され、歯科医院での患者数も増えてくる。歯科医院の体制なども考慮し、歯科医師会とも連携して啓発を進めていきたい。また、WEBなどで、高齢者から学齢期の方まで幅広く参加できるような取組も進めていきたい。

議題3

その他

北谷 議員：

生活保護に関連して、厚労省からの事務連絡「新型コロナウイルス感染防止等のための生活保護業務等における対応について」に沿った対応を窓口で徹底していただくようお願いしたい。

森議員：

この機会を契機に、職員の働き方、新たな業務体制の構築についての議論を深めてほしい。窓口業務は、市民とのコミュニケーション、傾聴という意味では非常に大切な業務だが、並行して、I o Tの導入等、極力対面しなくても手続きが行える手法も検討し、職員や区民一人一人の安全の確保に努めてほしい。

出口 区長：

国から示された「新しい生活様式」に合わせて、手続のオンライン化や働き方改革等が加速化していくものと考えている。ある意味、行政サービスの利便性の向上や働き方の見直しを図るいいチャンスになる。

現状では、区役所業務は対面が中心であり、すぐにリモートワーク等へ切り替えるのは環境的に難しいが、緊急事態宣言下において、手続きの簡素化や業務軽減の検討などについて、区内でも様々な知恵を出し合ってきた。これをきっかけに変えていく、というベクトルは維持していきたい。一方で、そういった急速な変化への対応が難しい区民の方にとっても身近な行政機関として、対面での手続・サービスは欠かせない部分だと考えている。オンライン、対面手続きのそれぞれの良さを両立させながら進めていければと考えている。

森 議員：

私も全くその通りだと思う。新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴う給付金等の支給に関しては、国、県、市のそれぞれから様々な制度が断続的に出ている。区民の経営者、生活者の皆さんにとってわかりやすいように、という視点に立ち、対応してほしい。

斉藤 議員：

次期中期計画の検討にあたっては、今回の感染症対策での課題も踏まえ、区役所の現場の声を反映していけるよう、一緒に取り組んでいきたい。また、区民のニーズに応えるためには、職員の心身が健康であることが重要だと思う。緊急事態宣言下での職員の働き方の振り返りや、今後に向けて、職員の健康を保持していくための区の取組について聞きたい。

	<p>出口 区長：</p> <p>市民と職員の接触に伴う感染症への不安を解消するため、アクリル板を設置するなど、飛沫感染防止対策を徹底した。</p> <p>また、在宅勤務による出勤者の抑制やフレックスタイムの活用、書面・メールによる情報共有などにより、市民サービスに影響が出ない範囲での接触機会の削減に努めてきた。今後も引き続き、「新しい生活様式」を踏まえながら、職員の働き方改革について、できることからやっていきたい。</p> <p>職員は、新型コロナウイルス感染症が蔓延している中でも、本当に使命感を持って業務に取り組んでくれている。それを全力で支えていきたいと考えている。</p> <p>斉藤 議員：</p> <p>災害対策について、区民の「自助」の感度を高めていくことが重要になる。行政で対応できることにも限界はある。「ここまではできますが、ここからは自助で対応してほしい」という発信を、行政として行っていく責任がある。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症が流行した今、避難所の体制構築は待ったなしのため、区役所一丸となって進めてほしい。</p> <p>出口 区長：</p> <p>このことは非常に重要だと認識している。</p> <p>今回の新型コロナウイルス感染症の流行で、区民の方も「避難所はどうなるのか」という不安をお持ちだと思う。避難所体制の整備とともに、区民の方に災害時の自助・共助の意識をさらに深めてもらえるような取組が必要だと考えている。</p>
備 考	